

豊田景気実感調査

Viewing over Our Toyota's Economic Condition



第3号

発行日 2012.10.31

2012年9月調査結果 “梅雨入り” ～ 景況感の急激な冷え込み、経済状況の厳しさ実感一段と！～

本年9月末を足元の時点として、豊田商工会議所と豊田信用金庫とが協同して、豊田に居住もしくは勤務されている方を対象として、「身の回りの景気をどう感じているか」を3つの視点から調査させて頂きました。また特別アンケートも行いました。

<アンケートにご協力いただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。>

景気実感指数 (D I 指数)

3つの視点

(現状判断)	2～3ヶ月前から現在までの景気の変化をどう感じますか？
(先行き判断)	今から2～3ヶ月後までの景気の推移をどう予想していますか？
(水準判断)	今、現在の景気実感はどうですか？

24年9月の豊田市の景気天気図 (アンケートの調査結果) 全国、東海 (静岡を含めた4県) は内閣府9月調査結果。

	現状判断 D I				先行き判断 D I				水準判断 D I			
	家計	企業	雇用	総合	家計	企業	雇用	総合	家計	企業	雇用	総合
豊田	42.2	35.9	43.1	39.8	44.1	35.3	41.7	40.4	32.1	36.7	37.5	34.4
全国	40.2	40.0	50.8	41.2	44.1	41.3	44.9	43.5	35.4	36.9	50.7	37.3
東海	38.5			39.1	41.3			40.6	34.7			37.2

大きな晴れ : D I 60点以上 / 晴れ : 50～60点未満 / 曇 : 40～50点未満 / 雨 : 40点未満

<消費税引き上げ>
平成26年4月 8%
平成27年10月 10%

24年3月の豊田市の景気天気図 (総合)



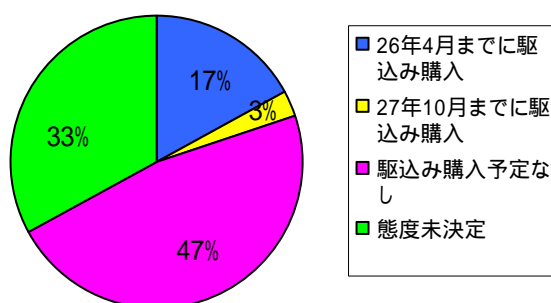
特別アンケート 消費税増税に備えた消費動向と消費意欲の調査

～ 巻末に掲載 ～

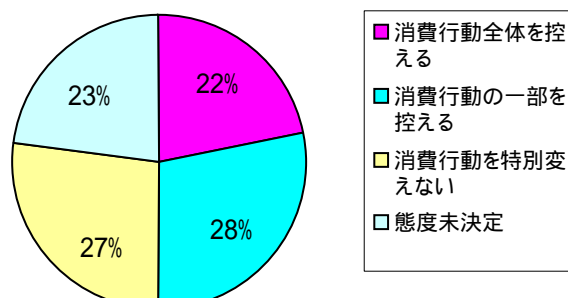
消費税引き上げ前に何らかの消費行動を考えておられる方は20%に留まりました。
消費税引き上げ後は、実に半数、50%の方が消費を程度は別として控えると回答されました。
生活用品の日常購入は市内大型店という方が6割となり、地元商店街の皆さんの厳しい状況が浮き彫りになりました。
1,000万円の宝くじが当たった場合でも、8割の方が半分以上は貯蓄に回すと回答されました。

消費税増税前と増税後の消費行動調査 ～ 駆け込み購入に対しては冷静、増税後は財布の紐を更に固く～

消費税引き上げ前の消費行動割合 (%)



消費税増税後の消費行動割合 (%)



駆け込み購入品

- 1位 自動車
- 2位 住宅 (リフォーム)
- 3位 高級家電
- 4位 消耗品のまとめ買い

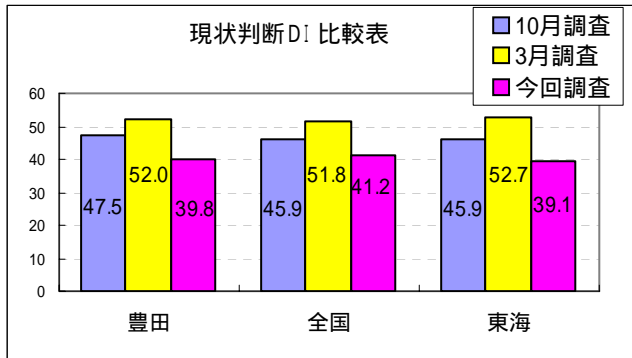
増税後の手控えが懸念されます！

現状判断総合DIは「39.8」 ~ 前回調査比12.2ポイントの大幅な悪化 ~

(1) 回答別構成比(%)

構成比		良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	DI
本調査	豊田	2.1	9.4	47.9	26.5	14.1	39.8
内閣府	全国	0.4	11.4	48.4	31.9	7.8	41.2
	東海	0.9	9.2	44.5	36.2	9.2	39.1

(2) DI比較表

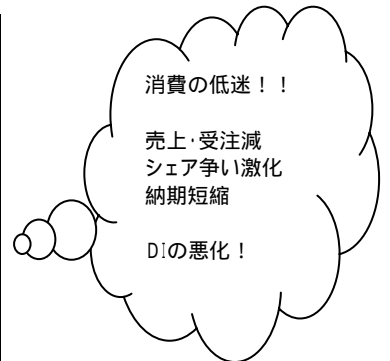


現状判断DIは、全国、東海、豊田のいずれも軒並み低下となりました。24年3月は横這い150を上回り、景気回復を期待させる結果になっていましたが、今回調査結果を見ると、景気回復傾向に赤信号が点灯している事が明らかとなっています。景気天気図も昨年10月が曇、今年3月が晴れ、今回9月は雨となり、調査期間中に起きた尖閣問題に端を発した中国での自動車不買運動の影響を如実に反映しているものと考えられます。

回答別構成比を見ますと、豊田は際立って“悪くなっている”との声が多く、全国・東海と比べ景気実感の急激な悪化が見てとれます。特に製造業DIにおいては前回調査比26.5ポイントの大幅低下となっており、それが消費や雇用に影響し始めている事が窺えます。

(3) 景気モニター業種別比較 (DIが50以上に網掛け表示)

業種	豊田市(A)	全国(B)	(A)-(B)	東海(C)	(A)-(C)
家計動向関連	42.2	40.2	+ 2.0	38.5	+ 3.7
小売関連	35.1	38.3	3.2	-	-
飲食関連	41.6	39.8	+ 1.8	-	-
サービス関連	52.5	42.1	+ 10.4	-	-
住宅関連	42.5	48.5	6.0	-	-
企業動向関連	35.9	40.0	4.1	-	-
製造業	32.4	37.3	4.9	-	-
非製造業	44.4	42.1	+ 2.3	-	-
雇用関連	43.1	50.8	7.7	-	-
合計	39.8	41.2	1.4	39.1	+ 0.7



景気モニターのコメント紹介 + : 回復感あり - : 回復感なし

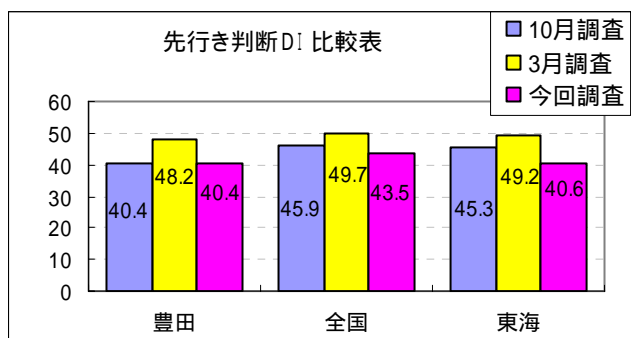
- + 消費税率が上がる前に住宅を購入しようとするお客様の来場が増加している。(住宅販売会社従業員)
- シェア争い、価格破壊、単価下落、納期の短縮と4重苦に晒され、利益なき繁忙状態にある。(通信会社社員)
- 中国で発生した反日デモ等による影響で、販売量が減り減産の状況となっている。(製造業従業員)
- 求人数が増加せず、また来所者の数が一向に減る様子がありません。(職業安定所職員)

先行判断総合DIは「40.4」 ~ 前回調査比7.8ポイント悪化 ~

(1) 回答別構成比(%)

構成比		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	DI
本調査	豊田	0.8	12.8	44.9	29.9	11.6	40.4
内閣府	全国	0.8	14.4	50.4	27.3	7.2	43.5
	東海	0.4	14.4	41.0	35.4	8.8	40.6

(2) DI比較表



2~3ヵ月先行きの判断DIは、前回調査比悪化し、先行き見通し不透明感が強く表現されております。

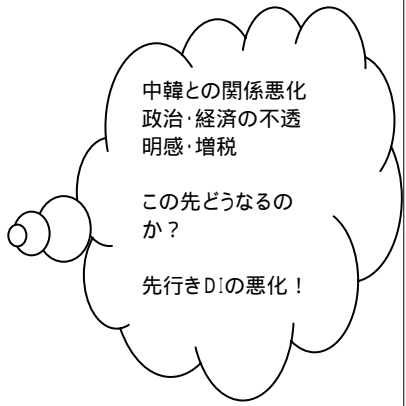
業種別に見ても、DIが50以上(晴れ)は一つもなく、先行きに対する漠然とした不安が、中国関係の悪化や政治の不安定さを引き金として顕在化してきたと言える状況が窺えます。

全国、東海と比較すると、豊田も例外なく同じ低下という動きをしていますが、現状DI同様、自動車産業が主要産業である当地域において製造業DIの低下は顕著であります。

エコカー補助金の終了、中国問題、円高、不透明な政治と先行きを悲観するには十分な材料がそろってしまっている状況において、先行き悲観は依然根強いものとなっております。

(3) 景気モニター業種別比較 (DIが50以上に網掛け表示)

業種	豊田市(A)	全国(B)	(A)-(B)	東海(C)	(A)-(C)
家計動向関連	44.1	44.1	+ 0.0	41.3	+ 2.8
小売関連	41.6	42.7	1.1	-	-
飲食関連	41.7	47.9	6.2	-	-
サービス関連	49.4	45.1	+ 4.3	-	-
住宅関連	40.0	47.9	7.9	-	-
企業動向関連	35.3	41.3	6.0	-	-
製造業	34.7	40.1	5.4	-	-
非製造業	37.0	41.8	4.8	-	-
雇用関連	41.7	44.9	3.2	-	-
合計	40.4	43.5	3.1	40.6	0.2



景気モニターのコメント紹介

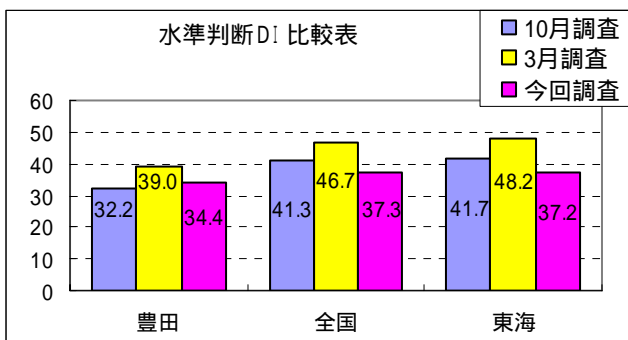
- + : 回復感あり - : 回復感なし
- + 消費税増税前特需や、介護関連ビジネスの興隆が期待できる。(求人情報誌編集者)
- 客数、単価ともに下落しており、消費低迷を感じる。値下げ合戦の様相。(スーパー店長)
- 中韓との領土問題に関連し日本製品の不買、観光客の減少等、景気に悪影響が出てくると思います。(製造業従業員)
- 車の販売動向、生産計画を見ても増加傾向がない。仕事量も減少しつつある為。(製造業従業員)

水準判断総合DIは「34.4」 ~ 経済状況の厳しさ実感は前回調査時より強まる ~

(1) 回答別構成比

構成比		良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	悪い	DI
本調査	豊田	1.3	7.7	34.2	40.6	16.2	34.4
内閣府	全国	1.0	11.7	36.6	36.9	13.8	37.3
	東海	1.7	9.6	38.9	35.4	14.4	37.2

(2) DI比較表

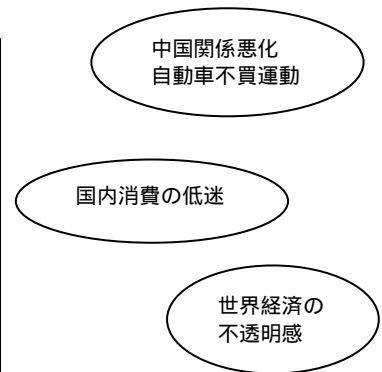


前回調査の豊田の景気水準判断DIは39.0で、40台後半の全国、東海に大きく見劣りしておりました。今回調査では全国・東海ともに大幅な低下となっており、豊田の水準判断DIに近づいています。しかしながら、豊田の水準判断DIが極めて低い状況にあるのは変わりなく、豊田の人々が足下の景気に対して、引続き大変厳しいと悲観的に感じている事が分かります。

業種別に見ると、前回調査同様、特に家計関連の小売DIが20台と極めて低い水準に留まる結果となりました。来客数の低下、販売単価の下落、財布の紐が固いといったモニターの方の声も多く、消費の低迷を肌で感じている様子が窺えます。

(3) 景気モニター業種別比較 (DIが50以上・30以下に網掛け表示)

業種	豊田市(A)	全国(B)	(A)-(B)	東海(C)	(A)-(C)
家計動向関連	32.1	35.4	3.3	37.2	5.1
小売関連	25.4	32.6	7.2	-	-
飲食関連	31.3	31.9	0.6	-	-
サービス関連	40.3	39.8	+ 0.5	-	-
住宅関連	37.5	44.0	6.5	-	-
企業動向関連	36.7	36.9	0.2	-	-
製造業	36.5	36.1	+ 0.4	-	-
非製造業	37.0	37.6	0.6	-	-
雇用関連	37.5	50.7	13.2	-	-
合計	34.4	37.3	2.9	37.2	2.8



豊田景気実感調査まとめ(24年9月調査)

全体を総括しますと、24年3月調査時に期待された震災からの復旧需要による生産活動の活発化や円安、株価の改善が、9月にはほとんど期待できない事態に陥っている様子が、現状・先行き・水準判断DI全てから窺えます。政府・日銀は内需は回復傾向にあるとしているものの、豊田の景気は確実に下振れ局面にあると推察されます。自動車産業へのウェイトの高い当地域としては、中国関係悪化による中国での自動車不買運動や、生産計画の見直し等は全国・東海に比べてもその衝撃は大きく、DIに如実となって表れました。先行きにつきましても、エコカー補助金終了に伴う反動や、消費税増税等のマイナス要素(新車販売150万台の減少との試算も出ている)が多く、プラス面を見つけるのが困難な状況であり、景気状況を引続き注視してまいりたいと思います。次回は25年3月調査となります。

回答種別	①豊田商工会議所に対して	②豊田信用金庫に対して	③その他
①	○各種イベント等良い企画をされていますが、情報提供が不足しており、インターネットを活用した広報活動を充実させて下さい。（製造業従業員）		
	○休止中の楽ゼミー店逸品運動両事業の復活・サポート支援を再開してほしい。（商店街代表者）		
	○一つの統一した理念や想いを共有するテーマパークのような特色ある商店街やエリア作りに積極的に貢献してほしい。（住関連専門店経営者）		
②	○生体認証ATMの早期導入をお願いします。（ゴルフ場従業員）		
	○住宅ローンの繰上げ返済を小額であっても手数料なしで取り扱ってほしい。（設計事務所職員）		
	○努力している企業に対しては、金利をもっと下げて頂きたい。（食品製造業）		
③	○消費税が段階的に増税される事で、じわじわ消費にもダメージが出る事が想定でき、一気に増税されるよりも販売戦略がたてにくくなる事が懸念される。（百貨店売り場）		
	○自動車関連以外の産業を興すべき。特に商業、飲食に特化してほしい。（スナック経営者）		
	○消費税増税、電気料の値上げ、健康保険料増加など、細かい負担が増えているので中小企業にとっては、将来的不安が増す一方である。（製造業従業員）		

アンケートの詳しい結果は、豊田商工会議所及び豊田信用金庫のホームページをご覧ください

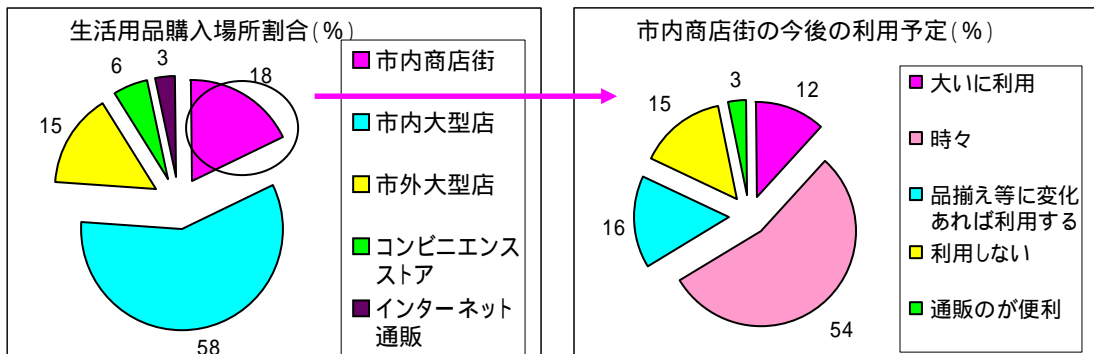
ホームページには「景気モニターの方から寄せられた貴重なご意見」「景気の現状・先行きを判断した理由」等、本誌に掲載できなかったより多くの調査結果掲載しております。
(11月中旬掲載予定)

特別アンケート 消費税増税に備えた消費動向と消費意欲調査 ~ 1頁からの続き ~

消費税増税前と増税後の消費行動調査 ~ 駆け込み購入に対しては冷静、増税後は財布の紐を更に固く ~

- ☞ 消費税引き上げ前の消費行動については、約半数の方が駆け込み購入をしないと回答され、事務局の想定外でした。もっと多くの方が駆け込み購入をすると回答される事を予想しておりましたので、モニターの方の冷静な態度に驚かされました。
- ☞ 消費税増税後の消費行動については、約半数の方が消費行動を控えると回答され、消費税増税が消費の低迷に直結する様子が数字として表現されています。景気の回復＝消費の活発化から見ても、景気の本格回復は、まだ時間がかかるものと思われます。

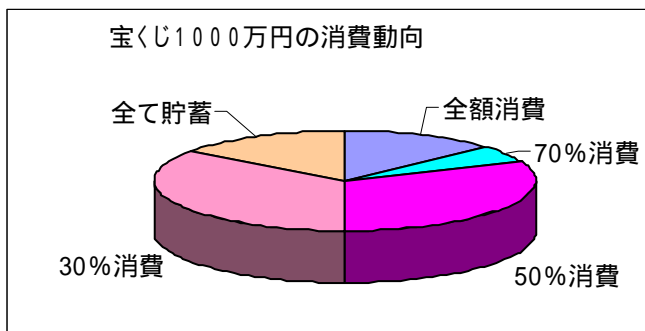
生活用品は主にどこで購入されますか？ ~ 市内大型店との回答6割、小型店舗は苦戦必死 ~



豊田商工会議所からのイチオン調査になります。

- ☞ 商店街を応援したい気持ちから分析しますと、市内外大型店にあって、商店街に不足している駐車設備が共有という形でかなり整備されてきたものの、車社会の豊田市として、より行政、民間一体となった支援体制の充実が必要であると思われます。

1,000万円の宝くじが当たった場合、その何%を物品購入等の消費に使いますか？ ~ 全額消費は1割のみ ~



☞ 1,000万円の内、実に半分以上を貯蓄に回すと回答された方は8割にも上ります。ひとえに、経済状況の先行き不安、消費税増税、年金所得の停滞等から、家計の厳しい将来が想定されてしまい、自分の身は自分で守る“自己防衛”の意識が高いレベルで保持されている様子が強く窺えます。
宝くじという臨時ボーナスでさえ貯蓄するとの回答割合から考えますと、消費行動を積極的に展開する未来は不透明であり、消費に対する後押しが、日本には必要です。
消費行動に勇気が必要なようでは、先行き懸念は増すばかりです。行政・民間一体となった消費活性化が今こそ求められます。

景気実感指数 DIの算出方法

評価段階	5	4	3	2	1
現状	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
先行き	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
水準	(良い)	(やや良い)	(どちらでも)	(やや悪い)	(悪い)
付与点数	1	0.75	0.5	0.25	0

5段階評価での回答を集計し、評価の構成比を算出し、それに上記の付与点数を掛けて合計値 (= DI値) を算出します。DIはモニターの方々の“景気の動きに対する投票”と言えます。



地域経済研究グループ

〒471-8601 愛知県豊田市元城町1-48

電話 0565-36-1384

URL <http://www.toyoshin.co.jp>